

風水害・土砂災害②

避難するときは、がけ崩れや地すべり・土石流等の二次災害を考慮に入れ、足元に注意して避難しましょう。

土砂災害に備える

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いた時に発生するとされています。土砂災害の要因となる降雨について、常日頃から注意しておく必要があります。



●土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、北海道渡島総合振興局と函館地方気象台が共同で発表する防災情報です。

こんな前ぶれ現象に注意!!

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



地面にひび割れができる



川の流が濁り流木が混ざり始める



小石がパラパラ落ちてくる



斜面から水がふき出す

▷雨に注意しましょう



土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

▷逃げ方を覚えましょう



土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

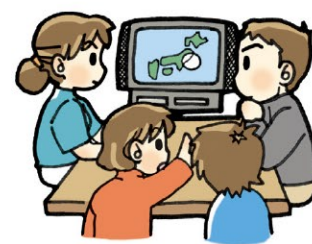
▷避難場所を決めておきましょう



日頃から家族全員で避難場所や避難する道順を決めておきましょう。そうすれば、家族が一緒にいないときでも、避難場所まで落ち合うことができます。

災害への対応

1 最新情報を入手



テレビ・ラジオなどで最新の気象・災害情報に注意し、危険を感じたら避難準備をしましょう。

2 呼びかけに注意



役場、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

3 避難所を確認



避難する前に、ガス、電気、火種を消し、避難所を確認。万一途中で家族が離ればなれになったときの集合場所を決めておきましょう。

4 2人以上で避難



できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子供からは目を離さないようにしましょう。

5 助け合って避難を



子供や高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。

6 安全な避難



浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、がけ地などでは、土砂災害の恐れがあるので注意しましょう。

7 交通渋滞を防ぐ



車での避難はやめましょう。緊急車両の通行の妨げや交通渋滞を招き、浸水すると動けなくなるおそれがあります。特別な事情がない限り、避難は徒歩で行いましょう。

8 避難に遅れたら...



万一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。

⚠ 浸水時の歩行に注意!!

浸水した場合、水の流れがなくても歩ける深さの目安は、ひざ下(約30cm)くらいまでです。水の深さが腰まであったり、浅くても水の流れが速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。



裸足や長靴は避け、ひもで締められる運動靴を履きましょう!